

# 平成30年3月期 第2四半期決算説明資料

平成29年11月2日



エムケー精工株式会社

証券コード:5906



# 平成30年3月期 第2四半期の決算概要

# 平成30年3月期 第2四半期の総括

## 業績の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、海外の経済情勢の不確実性や金融資本市場の変動による影響など、先行き不透明感が残るものの、政府による各種政策を背景に企業収益や雇用環境の改善が継続し、緩やかな回復基調で推移いたしました。

当社グループ関連業界におきましては、オート機器の分野では設備投資は堅調に推移しましたが、情報機器及び生活機器の分野では、市場が伸び悩む中、ともに激しい価格競争が続く厳しい経営環境にあります。

こうした状況のもと当社グループは、持続的成長と健全な企業体質への改善に向けて、モノづくりの原点回帰と顧客視点に立った商品開発、サービス品質の向上に取り組むとともに、継続的なコスト低減と生産性の向上により、収益基盤の強化に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は99億9千5百万円(前年同期比0.6%減)、営業利益は7億1千9百万円(前年同期比5.9%増)、経常利益は7億1千6百万円(前年同期比4.6%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億4千4百万円(前年同期比7.8%増)となりました。



## 平成30年3月期 第2四半期の業績

### <連結業績>

単位：百万円

	29年9月期	28年9月期	対前期比
売上高	9,995	10,055	99.4%
営業利益	719	678	105.9%
経常利益	716	685	104.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	444	412	107.8%

## 平成30年3月期 第2四半期連結貸借対照表

単位:千円

	29年9月期	28年9月期	増減額
(資産の部)			
<b>流動資産</b>	<b>12,170,060</b>	<b>12,025,521</b>	<b>144,538</b>
現金及び預金	1,868,339	1,849,458	18,880
受取手形及び売掛金	4,863,365	4,852,566	10,798
たな卸資産	5,121,200	4,995,113	126,086
その他の流動資産	317,154	328,382	△11,227
<b>固定資産</b>	<b>10,039,433</b>	<b>9,222,968</b>	<b>816,465</b>
有形固定資産	6,437,020	6,049,982	387,038
無形固定資産	1,034,380	1,152,092	△117,711
投資その他の資産	2,568,032	2,020,893	547,138
<b>繰延資産</b>	<b>—</b>	<b>497</b>	<b>△497</b>
<b>資産合計</b>	<b>22,209,493</b>	<b>21,248,987</b>	<b>960,505</b>

## 平成30年3月期 第2四半期連結貸借対照表

単位:千円

	29年9月期	28年9月期	増減額
<b>(負債の部)</b>			
<b>流動負債</b>	<b>8,471,653</b>	<b>8,668,036</b>	<b>△196,383</b>
支払手形及び買掛金	1,396,971	1,420,915	△23,943
短期借入金	2,300,000	2,210,000	90,000
1年内返済予定の長期借入金	470,157	577,987	△107,830
未払金	3,082,444	3,205,251	△122,807
その他の流動負債	1,222,080	1,253,882	△31,802
<b>固定負債</b>	<b>2,973,936</b>	<b>2,804,326</b>	<b>169,609</b>
長期借入金	1,946,020	2,344,833	△398,813
その他の固定負債	1,027,916	459,493	568,422
<b>負債合計</b>	<b>11,445,589</b>	<b>11,472,363</b>	<b>△26,773</b>



## 平成30年3月期 第2四半期連結貸借対照表

単位：千円

	29年9月期	28年9月期	増減額
(純資産の部)			
株主資本	10,156,734	9,625,946	530,788
資本金	3,373,552	3,373,552	－
資本剰余金	2,951,143	2,951,143	－
利益剰余金	4,342,495	3,811,674	530,821
自己株式	△510,457	△510,424	△33
その他の包括利益累計額	607,169	150,677	456,491
その他有価証券評価差額金	396,947	153,089	243,858
繰延ヘッジ損益	4,993	△24,330	29,323
為替換算調整勘定	44,287	△80,309	124,597
退職給付に係る調整累計額	160,940	102,228	58,712
純資産合計	10,763,903	9,776,624	987,279
負債純資産合計	22,209,493	21,248,987	960,505



# 平成30年3月期 第2四半期連結損益計算書

単位:千円

	29年9月期	28年9月期	増減額
売上高	9,995,583	10,055,043	△59,460
売上原価	6,446,630	6,610,369	△163,738
<b>売上総利益</b>	<b>3,548,952</b>	<b>3,444,674</b>	<b>104,277</b>
販売費及び一般管理費	2,829,700	2,765,696	64,003
<b>営業利益</b>	<b>719,252</b>	<b>678,977</b>	<b>40,274</b>
営業外収益	47,588	54,987	△7,398
営業外費用	49,931	48,264	1,666
<b>経常利益</b>	<b>716,910</b>	<b>685,700</b>	<b>31,209</b>
特別利益	55	6,868	△6,813
特別損失	470	1,420	△949
<b>税金等調整前四半期純利益</b>	<b>716,495</b>	<b>691,149</b>	<b>25,345</b>
法人税等及び法人税等調整額	271,586	278,455	△6,869
<b>親会社株主に帰属する四半期純利益</b>	<b>444,908</b>	<b>412,693</b>	<b>32,214</b>



## 平成30年3月期 第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書

単位：千円

	29年9月期	28年9月期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	△408,547	△491,096	82,548
投資活動によるキャッシュ・フロー	△312,934	△259,199	△53,734
財務活動によるキャッシュ・フロー	642,687	687,382	△44,695
現金及び現金同等物に係る換算差額	△5,798	△38,781	32,983
現金及び現金同等物の増加額 (△減少額)	△84,594	△101,695	17,101
現金及び現金同等物の期首残高	595,216	685,508	△90,291
現金及び現金同等物の四半期末残高	510,622	583,812	△73,190

## 平成30年3月期 第2四半期連結株主資本等変動計算書

＜平成29年3月21日から平成29年9月20日まで＞

単位：千円

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成29年3月21日残高	3,373,552	2,951,143	4,013,596	△510,424	9,827,868
当第2四半期連結累計期間中 の変動額					
剰余金の配当			△116,009		△116,009
親会社株主に帰属する 四半期純利益			444,908		444,908
自己株式の取得				△33	△33
株主資本以外の項目の 当期間中の変動額(純額)					
当第2四半期連結累計期間中 の変動額合計	-	-	328,898	△33	328,865
平成29年9月20日残高	3,373,552	2,951,143	4,342,495	△510,457	10,156,734

## 平成30年3月期 第2四半期連結株主資本等変動計算書

単位：千円

	その他の包括利益累計額					純資産 合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付 に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額 合計	
平成29年3月21日残高	338,101	23,845	117,384	148,840	628,171	10,456,040
当第2四半期連結累計期間中 の変動額						
剰余金の配当						△116,009
親会社株主に帰属する 四半期純利益						444,908
自己株式の取得						△33
株主資本以外の項目の 当期間中の変動額(純額)	58,846	△18,851	△73,096	12,100	△21,002	△21,002
当第2四半期連結累計期間中 の変動額合計	58,846	△18,851	△73,096	12,100	△21,002	307,863
平成29年9月20日残高	396,947	4,993	44,287	160,940	607,169	10,763,903

## セグメント別分析

### ■ オート機器事業

主力製品の門型洗車機は、昨年引き続き政府補助金制度の効果によりSS業界の需要が好調を維持したことに加え、カーディーラー及び整備工場業界が新設等の積極的な投資を行ったことにより堅調に推移しました。また、オイル機器ではCVT&ATオートチェンジャーやエアコンプレッシャーが、SS業界の油外収益に対する意欲の高さから販売台数を伸ばしました。その結果、売上高は前年同期比2.3%増の69億6千3百万円となりました。



門型洗車機

### ■ 情報機器事業

一般店舗向け小型表示機は前年同期の実績を上回ったものの、大型表示機の受注数が少ない状況が続いています。また、SS向け価格看板は好調でしたが、官需関連は当期内に売上となる案件が少なかったことから、全体として低調に推移しました。その結果、売上高は前年同期比26.0%減の6億9千7百万円となりました。



一般店舗向け小型表示機と  
フルカラー表示機

## セグメント別分析

### 生活機器事業

農家向け商材の低温貯蔵庫は概ね前年並みに推移しましたが、電子レンジ置き台、保冷米びつなど一般家庭向け商材は、個人消費の伸び悩みにより低調に推移しました。一方、今期新発売した調理家電の小型精米機やパン焼き機は、順調に売上を伸ばしました。その結果、売上高は前年同期比0.2%増の16億6千6百万円となりました。

### 住設機器事業

子会社の株式会社ニューストが行う事業で、主として木・アルミ複合断熱建具、反射板式消音装置及び体育館向けの防球格子建具を製造・販売しております。地域産の木材利用促進と省エネ基準義務化の後押しにより販売が好調に推移し、また自然災害が発生した際に避難所にもなる体育館での防球格子建具は、防犯を兼ね備えた安全性や、通風とブラインド効果を発揮しながら衝撃荷重にも耐えることから需要が伸びております。その結果、売上高は前年同期比7.2%増の5億7千5百万円となりました。



味の新鮮蔵ミニ



アルタスウッドスクリーンの施工例

## セグメント別分析

### ■ その他の事業

その他の事業は、長野市内で展開しております「長野リンデンプラザホテル」の運営事業及び保険代理業、不動産管理・賃貸業であります。ホテル業は、お客様のニーズを踏まえたサービス品質の向上に努めておりますが、競合ホテルの出店に加え価格競争による厳しい環境が続いております。その結果、売上高は前年同期比9.8%減の9千2百万円となりました。



長野リンデンプラザホテル

# 平成30年3月期 業績・配当予想

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、今後様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 平成30年3月期の業績予想

### <連結業績>

単位：百万円

	30年3月期(予想)	29年3月期(実績)	対前期比
売上高	20,000	20,558	97.3%
営業利益	650	973	66.8%
経常利益	600	968	62.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	350	614	56.9%



## 平成30年3月期の配当予想

当社グループは、株主各位への利益還元を重要な政策と位置づけ、今後の事業展開を念頭に財務体質の強化のための内部留保とのバランスを考慮した利益配分を基本方針としております。

平成30年3月期における1株当たりの年間配当予想は以下のとおりです。

### <1株当たり年間配当金>

	1株当たり期末配当金
平成30年3月期(予想)	8円00銭
平成29年3月期(実績)	8円00銭

# 參考資料

## 当社の経営方針

### ■ 今後の経営方針

当社グループは、企業理念「求・消・営」のもと、お客様（消費者）をすべての中心に据え、お客様に求められる製品とサービスを提供するための営業に努めてまいりました。また、開発から製造・販売までの一貫体制による「自社考案・自社販売」を基本方針として、研究開発型企業を志向しております。

なお、当社グループを取り巻く環境は時々刻々と変化しており、また、これに伴い顧客ニーズやビジネスモデルが益々多様化しております。こうした変化や多様化に敏感かつ柔軟に適応すべく、モノづくりとサービス提供との高度な融合にチャレンジし続けてまいります。

# 中長期的な経営戦略

## ■ 中長期的な経営戦略

今後の経済見通しは、国内景気は引き続き緩やかな回復が見込まれるものの、海外の経済環境では厳しい見通しが大勢を占め、また国内の個人消費も引き続き不透明な状態が想定されます。

当社グループは、こうした経済環境に過度に左右されない、質実な企業体質に改善を図るため、以下の課題に取り組んでまいります。

### ①新商品、新規ビジネス

企業体質の強化には、新商品や新規ビジネスの開発が必要条件であり、顧客の視点に立ったモノとサービスを発想できる組織と人材が必要です。このため、組織を超えた部門、拠点の連携や人的リソースの最適化を図りつつ、商品戦略、事業戦略及びブランド戦略を推進してまいります。

### ②ブランドの強化

当社グループらしい社風を追求しつつ、収益に結びつく情報発信ができるよう、ブランド強化を図ってまいります。活動としては、対外向けのコーポレートブランディング、グループ内のインナーブランディング及び学生等に向けた採用ブランディングがあり、相互に連携させ総合的な改善に努めます。

## 中長期的な経営戦略

### ③生産性の向上

当社グループにあって、引き続き生産性の向上が最重要な課題の一つです。更なる合理化、コスト低減を目指し、設計、生産、販売の各プロセスから調達先に至るまで、聖域なく見直してまいります。また、工場の設備、レイアウトや人員配置など、投資効果と事業継続の観点から間断なく最適化を図ってまいります。

### ④経営インフラの強化

企業体質を健全に保つには、財務、IT、人材といった経営インフラを整備し強化することが不可欠です。財務基盤の強化には、IT基盤の整備、改善が必要であり、また基盤を支える人材の育成が不可欠です。テーマごと、部門横断的な組織体によりグループの全体最適を踏まえて強化を図ります。

### ⑤企業倫理の高揚

法令、社会規範、地域文化、顧客視点などを踏まえ、企業及び企業人としての倫理観をもち品格ある行動ができるよう、グループ内の規範、統制、風土の整備、改善に努めてまいります。

## 研究開発活動

経済状況は緩やかな回復基調を見せていますが、個人消費は依然として楽観視ができない状況が続いており、また、原材料費の変動がある中で市場では厳しい価格競争が続いています。このような社会状況の中で、市場の変化、技術の変化を感度良く取り入れ、環境に配慮した研究開発の実践が求められています。当期も引き続き「フュージョン・テクノロジーで未来へ」を合い言葉に、「メカトロニクス技術」と「情報通信・処理技術」をコアテクノロジーとした高付加価値商品の研究開発を基本方針として、研究開発活動を次のとおり進めてまいりました。

### ■ オート機器事業

門型洗車機では、1ウェイドライブスルー機の「ファサード」及び「パサージュ」のモデルチェンジを行い、機能を一新しました。最上位機種のパサードには、従来から定評のある車形センサーを335軸から535軸へと高精細化するとともに、装備品の左右搭載位置を立体的に把握できる3Dスラントスキャンシステムを搭載し、立体的に把握した高精度車形データをきめ細かくブラシ制御に反映することで、SUV車やワゴン車の洗浄性を大幅に向上しました。

自動車整備機器では、エアチャージャー及びジェットクリーナーのモデルチェンジを行い、使い勝手と耐久性を向上しました。

## 研究開発活動

### 情報機器事業

公官需向けでは、道路情報板として民需向けカラー表示機をベースとした新型表示機の開発を行いました。

民需向けでは、LEDを用いた中型のデジタルサイネージを開発しました。また、SS向けとして大型の価格看板を開発し市場投入しました。

工事関連、道路維持管理向け表示機についても新機能を追加した次年度モデルの開発に着手しています。

### 生活機器事業

家電商材ではほぼ2Lペットボトルサイズの小型2合精米機の開発を行いました。胚芽の残存率が高く、精米容器に入れた玄米の量を自動認識する機能などが特徴で、今までに無い新タイプの精米機としました。また焼き芋やヨーグルトも手づくりができ値頃感も実現したホームベーカーリーと、自家製ヨーグルトや甘酒などがつくれるヨーグルト・甘酒メーカーの開発を行いました。

農家向け商材では、玄米専用0.5坪、1坪タイプ大型低温貯蔵庫のモデルチェンジを行い、LED庫内灯の標準装備、サビに強い架台採用など商品力の向上を図りました。

## 研究開発活動

### ■ 住設機器事業

ノイズバスターシリーズでは、木製消音ルーバーの開発に着手しました。近年木造建築が増えていることから、外装と調和した木質の消音効果があるルーバーとして、空調機器等の騒音問題に配慮した商品をめざしてまいります。

また、強化ガラスと木を一体化した扉「かまちとびらキミエルドア」の商品化が完了し、従来の複合框扉をスリム化した扉と併せて、建物の玄関となる風除室向けにアルタスウッドスクリーンとセットで拡販を図っていきます。



## 新製品情報

### ■ オート機器

#### 【ドライブスルー洗車機の最上位モデル ファサード [XL-902]】

新開発の車形認識システム「3Dスキャン」を搭載し、洗浄性能と安全性を飛躍的に向上させました。3Dスキャンは業界最多の535本のセンサーラインで、奥行きのある立体的な車形認識を可能にしました。

車形だけでなく左右非対称のアンダーミラーなどの装備品位置をピンポイントで捉えた車形データをもとに、ミリ単位でブラシや乾燥ノズルを制御し、これまで以上の洗浄力と乾燥力を実現します。



## 新製品情報

### ■ オート機器

#### 【車用掃除機 ジェットクリーナ [CS-291GY]】

軽量でスリムな新設計ノズルを採用しました。重量を従来比10%削減し作業負担を軽減、さらに多様化する室内空間に対応するため、ノズル部を細く長く延長し、センターコンソールやシート脇などの狭い場所もスムーズに清掃できます。

また、圧縮空気のエア噴射機能も装備し、ダッシュボード周りや、絨毯にからみついたホコリも吹き飛ばしながら吸引できます。



## 新製品情報

### 情報機器

#### 【ViewVisionBLOCK】

フルカラー表示機『ViewVisionBLOCK』を発売しました。

定番製品であるFQ1684と共用のキャビネットを用いており、短納期を実現しました。

規格化したユニットサイズの商品で、複数台を組み合わせることで様々なサイズのLEDビジョンが構成できます。高輝度LEDを用いており、高品位で優れた視認性、鮮やかで滑らかな映像表現を実現しています。



## 新製品情報

### 生活機器

#### 【小型精米「RICELON」、 「COPON」】

業界初となるコンパクトでキッチンの片隅に置いて毎日使える精米量2合の少人数家庭向け「小型精米機」2機種を発売しました。

精米容器に入れた米の量をセンサーが自動で読み取り、最適に精米するマイコン制御です。

精米方法是对流式で、白米精米でも胚芽残存率が高い優しい精米を実現しました。精米度は21

コースと細かく設定でき、分づき米から白米、米とぎまで、精米したての食感がなめらかで風味豊かなごはんがいつでも味わえます。



## 株主優待制度のご案内

### 株主優待制度の内容

当社のグループ会社で運営する長野リンデンプラザホテル(長野市南千歳町)の宿泊優待券を贈呈いたします。

### 発行基準

宿泊優待券は、毎年3月20日現在、所有株式数1,000株以上の株主様に対し、次のとおり発行いたします。

ご所有株数	ご優待券
1,000株 ~ 1,999株	2枚
2,000株 ~ 3,999株	3枚
4,000株 ~ 9,999株	4枚
10,000株以上	6枚

### 発行日

定時株主総会后、決議通知に同封いたします。

### 有効期限

発行年の翌年6月30日



長野リンデンプラザホテル



本資料に関するお問い合わせ

**エムケー精工株式会社**

管理本部

TEL : 026-272-0601

E-mail : [soumu@mkseiko.co.jp](mailto:soumu@mkseiko.co.jp)